

# 御国が来ますように！！あなたはどのように生きるのか 「我々に似たものとは。あなたはどなた。」

創世記1：26～27

## ■ メンデルスゾーン

音楽家のメンデルスゾーンを知っているでしょうか。彼はある時、自分が買った物の包装紙を見て感動します。それはある作曲家がかいた曲の直筆の楽譜でした。彼はその素晴らしさに感動し全部楽譜を買いました。それはあのバッハの受難曲の楽譜だったのです。時代と共に廃れ忘れ去られていたこの曲をメンデルスゾーンが世に出したのです。このようにその時には評価されないがあとから評価されるものというものがあつた。また素晴らしい物はたくさんあるのですが、気づかれないものが多いのです。だから、私たちが今の価値観で生きるか新しい価値観で生きるかを考えたいのです。

## ■ 創世記1：26～27

神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」(26節)

ここには「似るように造られた」とあります。似るようにはどどのように造られたのでしょうか。私たちは最高傑作としてつくられたはずなのに、人に見られると恥ずかしいのです。「あなたは誰」と聴かれ、あなたは何と答えますか？人には意味があるので。

バッハの曲は素晴らしい曲でした。でも廃れていたのです。素晴らしい曲なのに廃れていたのであれば、磨き直して聴いてもらわなければいけないのです。メンデルスゾーンは自分の曲ではないのに伝えました。結果、彼の曲も世に出たのです。

## ■ 新島襄の言葉

新島襄の言葉にこのようなものがあります。  
「真道に歩み、身真道に委ね、真道を以て他人を益するにあり」  
私たちに「真(まこと)になれ」と言われています。真とは「本当」ということです。あなたは本当の自分でしょうか。  
「優しい自分と冷酷な自分」  
「素直な自分とふてくされる自分」  
私たちにこんな風に2人の自分があるかもしれません。したいと願うことができず、したくないことをしてしまうのです。本当の自分でない自分が動いてしまうのです。あなたはそんな風になっていないでしょうか。

## ■ 井深八重

井深八重という人がいました。彼女はとても裕福な家で生まれ、当時の日本で女性なのに学ぶ機会を与えられるような境遇でしたがあるとき病にかかります。ハンセン病でした。全てを失い、隔離されました。彼女はとても辛い状況でしたが、そんなときに一人の神父に出会います。そしてそこにいる人たちは神父と幸せそうに賛美していたのです。そして八重もそうになっていきました。そしてその1年後、なんと誤診だったことがわかりました。彼女は帰ることもできましたが、そこで一生を捧げました。本当の自分を見つけたからです。

私たちは自分に死なないと変われません。本当の自分がわからないからです。でも私たちが本当に死んだら大変です。だから2000年前私たちの代わりイエス・キリストが十字架に架かったのです。自分のために死んだ人がいることがわかることと自分を見つめなおすことができます。あなたには神様からの大事な命令があります。「任されたものをしっかり管理しなさい」と言われています。どんなふうに管理するのでしょうか。「われわれに似るよう」です。「われわれ」・・・ここには「エロヒム」という言葉が使われています。これは神様の複数形です。「愛する父」「父を愛する子」「励ます御霊」この3つの人格が一つの中にあるのです。なぜその3つが必要だったのでしょうか。それはこの後何かが起こると知っていたからです。私たちに自由意思があります。人に言われるとできないという人がいます。そういう人は自分で決めたいのです。

## ■ 創造

アダムも同じでした。アダムとイブは罪を犯した後、自分たちが裸であることを知り、見られるのがはずかしくなりました。なぜでしょう。自分の中に本当の自分でない別の自分があることがわかったからです。私たちは自分を任されたのにそれを管理せず、罪を犯した後、自分を隠したのです。そしてアダムは「あなたの造ったその女がそそのかした。」と神様に言いました。彼の中に偽りの自分がかいたのです。だから神様は準備していたのです。「自分が犠牲になるという方法」を。そしてこれが「愛」です。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」(創1：27)  
なぜここに「創造」という言葉がたくさん出てきているのでしょうか。

一つ目の創造は「神のイメージ」2つ目は「外見を整える」3つめは「真の完成」という意味があります。創生の始めから神はイメージとして人を造られたが、外側が壊れてしまうことがわかっていて、真の完成をする必要があることがわかっていました。

## ■ 真の道に生きる(本当の自分に帰る)

「神はアブラハムに対して、「イサクから「出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。」(ヘブル11：18、19)

「持っているこれを捨てよ」そう言われることがあります。そう言われると私たちは嫌です。だから私たちはほとんど間違ったほうへ行ってしまう。そして行き続けると結果、戻れなくなってしまうのです。今、私たちが問題を抱えているのは間違った方向に進んだからです。そこで神様は「戻りなさい」「手に持っているものは私に返せ」「捨てろ」と言われます。アブラハムは信じていました。大事なイサクを棄てても必ず帰ってくる。そしてその中でアブラハムは弱さを削られていったのです。

「なんでこんなことをしているんだろう」そう思うこともあるでしょう。そんな時は考えなくてはいけません。人間だけ神様に祈ることができません。人にだけ永遠の思いがあるのです。そして永遠の思いは永遠の人を見つめるようにできています。だから「なぜ永遠のものがあのか」「永遠でありたい」と思います。そしてその方法は「真の道に生きる(本当の自分に帰る)」ということです。元に戻らなければいけません。なぜ私たちは毎週祈らなければいけないのでしょうか。本当の自分を見失って、誰かや環境のせいにしていくからです。そして痛みに遭って初めて気づくのです。神の最大の奇跡は人が変わることです。もう一度神様の前に出て、自分を見直しましょう。それができた人は、神様に祈ることができるようになります。幸せは後からついてきます。なぜならあなたがまっすぐに生きれば祝福されないわけがないのです。うまくいかないなら、自己中心だからです。人のことを裁いている人がうまくいくわけがないのです。今、もし自分の違う物を殺すことができたなら、真の道に生きることでできるのです。イサクが信じたのは、父が信じたからです。父が信じたならば必ずそれを受け継ぎます。人を変えたいのが私たちですが、変わるは私です。でも神様は私たちに変われといったのではありません。「私が受ける」と言ったのです。

## ■ ノースウエスト航空 255 便

昔、飛行機事故がありました。15メートルまで離陸して高速道路に落ちて大破しました。操縦士は焦ったのです。たくさんのエラーが重なり、道に迷いました。そして羽をなくした飛行機は多くの人を犠牲にしました。でもその中に一人だけ助かった少女がいました。母親が抱きしめ守っていたのです。人はあせると本来しなければならぬことを忘れて間違ったことをしてしまいます。今自分を見失っていませんか？わかっていますか？焦りミスが重なり、多くの犠牲を出した飛行機の中で、母だけが子を愛し、真剣に冷静に神に祈りながら行動したのです。そしてきっとその生き方はその子に残ったでしょう。

## ■ 「主」とはなんでしょう

「主」という言葉を使いますが、「主」とはなんでしょう。「主」これを「アドナイ」といいます。満ちた神、勝利の神・・・直接的に神を呼ぶためにたくさん名前をつけました。では主とはどういう意味なのか・・・ここに使われているのはすべて意味のある造形文字であり、「見る・くぎ・見る・手」とあります。「手の穴に指を入れるまで信じない」・・・私たち人間がこういうことを神様は知っていたのです。だから主は自らの手を差し出して自らがその痛みを負うことで示す・・・つまり「犠牲」という意味です。

## ■ さいごに

私たちの人生には犠牲が起こります。道を外すからです。戻すためには犠牲が必要なのです。そして長く生きれば生きるほど犠牲があります。でも犠牲が奇跡をもたらします。なぜなら、2000年前に犠牲になった人がいるからです。犠牲は大事です。そしてあなたに犠牲を払えといっているではありません。代わりに犠牲を払った人がいる、それがイエス・キリストです。ある人の犠牲が本物にするのです。私たちもイエス・キリストの犠牲を通して本物になる必要があります。人を指さしてはいけません。自分を見つめるのです。そして祈るのです。ずれた道から戻り、本当の私たちの姿に戻りましょう。

(要約者:岩崎 祥誉)

(2023年7月30日)